

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分でできる(自主) みんなとできる(協働)」～主体的に学び、温かい人間関係を育む子どもの育成～
○自ら学び、互いに高め合い、「知」を構築する力を育みます。(知)
○礼儀や規範意識を大切に、他者を思いやる豊かな心を育みます。(徳)
○自他の命を尊重し、心身ともに健やかな子どもを育みます。(体)
○地域を大切に、社会の一員として協働する姿勢を育みます。(公)
○コミュニケーションを大切に、様々な変化に柔軟に対応できる力を育みます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分づくり
コミュニケーション

具体化した資質・能力

- 多様な人・もの・こととの関わり
○多様な活動へのチャレンジ
○豊かな言語感覚
○豊かな人間関係

中期取組目標

○「あったかハート」を共通言語として全ての教育活動を展開します。
○自分のよさに気付くとともに、自分の生き方につながるチャレンジを続けます。
○まち(社会)とのつながりや自分の将来とのつながりを考えた活動を推進します。
○探究的な学びや体験活動等を通し、主体的・協働的な学びを推進します
○定量的評価軸(横浜市学力・学習状況調査他)をもとにして、取組の運営改善を図ります。
(「自分づくり」「コミュニケーション」に係る評価と進捗管理)

学力向上アクションプラン

重点取組分野

生きてはたらく知

具体的取組

- ①児童が主体的に取り組むことの学びを創る。(日常的な情報交換、教科担任による教材研究、iPadの活用等)
②国語科の授業研究を通して、自分の考えをもち、伝え合い、学びを深め合う児童の育成を図る。

担当 授業改善委員会

学力向上に関わる本校の状況

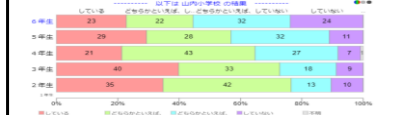
(1)学力に関わる児童の実態

横浜市学力学習調査の結果より、学力は、横浜市の平均を上回っている。先行学習により、高い知識を持っている児童が多くいるが、知識・理解・技能の習熟について力の差も見られる。



また、「授業では自分の考えを伝えたり、発表したりしている」と答えた児童は、高学年になるにつれて少なくなっている。

「48 授業では自分の考えを相手に伝えたり、発表したりしていますか。」



(2)これまでの学校の取組状況

①主体的に学ぶ児童を育てるための研修から、授業実践後の児童の姿容を見とる。学びを広げ深める姿勢の獲得と自分で自分の学びを評価するサイクルの習慣化。国語科を通して「主体的に学び 温かい人間関係を育む子の育成」を目指した。授業研究会を通して、児童の語彙の少なさ、教師の学習課題のたせ方に課題が見つかった。
②主体的に学ぶ方法の一つとしてiPadの活用方法を共有し、より良い活用について蓄積する。タブレットの活用は児童間の意見を伝え合いや整理に有効な面もあった。さらに使用方法の検討が必要である。

今年度の目標

「授業で自分の考えを相手に伝えたり、発表したりする力」「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする力」を伸ばす。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・各学年の児童の様子から、部会ごとに国語科におけるテーマ(話す聞く力の育成、話し合い指導等)を設定し、継続して、重点的に指導していく。学年研究会や授業改善委員会で、各学年の取り組みを情報交換し、職員に発信し共有する。
・授業研究を行い、児童が主体的に取り組んでいるか、目標が達成されているか、研究主題「自分の考えをもち、伝え合い、学びを深め合う子の育成」に迫るための手立てが適切であったか等について、検証する。
・GIGA委員会において、iPadの活用法について情報交換を行い、より効果的な活用について研修する。

上半期
下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野

豊かな心

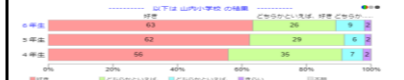
具体的取組

- ①児童自身が自己理解を深め、「自分づくり」を進められる教育をデザインする。
・自分の目標をもち、自己をふり返し、次の行動を起こす子どもの育成を進める。【毎月1回:自分づくりDay】
・あいさつから始まる、気持ちの良い協働力の育成を進める。【通年】【あいさつ週間】

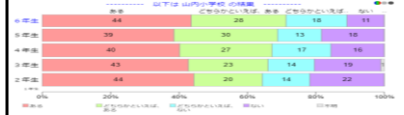
担当 児童指導・道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
友達と活動することが楽しいと感じ、周りの友達と関わりながら、自分なりに充実感をもって学校生活を送っている。
19 話したり、聞いたりして、人と関わることは好きですか。



「いったん目標を決めてから、その後別の目標に変えることがよくありますか」では、自分の目標を決めているが、失敗するとあきらめてしまう傾向もみられた。
33 失敗すると、やる気がなくなってしまうことがありますか。



(2)これまでの学校の取組状況

児童自身が自己理解を深め、「自分づくり」を進められる道徳教育をデザインする。
自分の目標をもち、自己をふり返し、次の行動を起こす子どもの育成を進める。
あいさつから始まる、気持ちの良い協働力の育成を進める。
道徳の授業を年間計画をもとに進めるとともに、授業の展開例を指導案を学年で作成した。
年間を通して、「礼儀」「挨拶」については、継続的な指導を続けた。
「自分づくり」の担当者を中心に、各学年に応じたためてをたて、児童の振り返りに役立てた。カードのあり方を検討し、来年度にさらに活かす。

今年度の目標

「自分づくりシート」や「自分づくりDAY」を充実させる。自己の振り返りをもとに目標を設定することで、行動を決定できる力を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・全校そろって火曜日を「自分づくりDAY」とし、宿題は出さず自分で計画を立てたことに取り組む。
・第4火曜日の朝、「自分づくりシート」へ取り組む時間を確保する。継続して自己を振り返る。

上半期

下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野

健やかな体

具体的取組

- ①一校一実践として、体育の授業の最初に俊敏性を高めるための運動に取り組む。【通年】
また、長期休み前に記録をとり、記録が伸びることを可視化し、運動に対する主体性を育成する。【年2回】

担当 体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態

おおよそ、横浜市の平均値である。全国と比べても同じようなことがいえる。しかし、「反復横跳び」は、全学年下回っている。また、総合評価では、Bが少なくDが多い。



(2)これまでの学校の取組状況

一校一実践の「がんちゃん(がんばりチャンピオン)」を中心に、運動の「できた」を可視化し、運動に対する主体性を育成する。①「できた」を可視化するために、カードを工夫した。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行の波により、がんちゃんの中止や延期を繰り返し、あまり活発にできなかった。がんちゃんができるときは、生き生きと取り組む姿が見られた。

今年度の目標

全学年、体育の授業の最初に「ラダー」に取り組む。また、長期休み前に反復横跳びの記録をとり、記録が伸びることを可視化し、運動に対する主体性を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・「ラダー」のやり方を全教職員で研修する。
・全学級で体育の最初に「ラダー」に取り組む。(5分程度)
・取り組みができていないかを毎月の経営推進委員会で確認する。
・7月、12月、3月に「反復横跳び」の記録をとる。

上半期

下半期